

ミニトマト防除基準(10a当たり)

防除時期のめやす	農薬名	適用病害虫	希釈倍率	10a当たりの散布基準	使用方法	認証のための使用回数	農薬カウント数
育苗期	使用せず						
定植時	ベストガード粒剤	アブラムシ類、コナジラミ類	1~2g/株		植穴処理 土壌混和	1	1
		マハモグリハエ	2g/株				
定植後20日	ロブラール水和剤	灰色かび病	1000~1500倍		散布	1	1
		輪紋病、斑点病	1000倍				
	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類	5000倍	100~300L	散布	1	1
定植後40日	ダコニール1000	疫病、輪紋病、葉かび病、炭そ病、うどんこ病、灰色かび病、すすかび病	1000倍		散布	1	1
	アドマイヤー顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類	5000~10000倍	100~300L	散布	1	1
定植後60日	トップジンM水和剤	葉かび病、灰色かび病、菌核病	1500~2000倍	100~300L	散布	1	1
	コテツフロアブル ※留(7)	オオタバコガ、ミカンキイロアザミウマ、ナミハダニ、トマトサビダニ	2000倍	100~300L	散布	1	1
定植後60日以降(収穫期) 収穫前日まで (使用回数以内で、状況に応じて散布)	Zボルドー	疫病、輪紋病	400~600倍	—	散布	2	0
		すすかび病、べと病	500倍	—			
	ベルコート水和剤	葉かび病、灰色かび病	6000倍	150~300L	散布	2	2
	トリフミン水和剤	葉かび病	3000~5000倍	—	散布	2	2
		すすかび病	3000倍				
	デルフィン顆粒水和剤 (ボルドーとの混用しない) ※留(7)	オオタバコガ、ハスモンヨトウ、アオムシ、シロイチモンジヨトウ	1000倍	—	散布	2	0
	アーデント水和剤	オオタバコガ、ミカンキイロアザミウマ	1000倍	150~300L	散布	2	2
	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類	5000倍	100~300L	散布	1	1
アドマイヤー顆粒水和剤	アブラムシ類、コナジラミ類	5000~10000倍	100~300L	散布	1	1	
開花前3日~開花後3日位	トマトーン	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	低温時 (20℃以下) 50倍 高温時 (20℃以上) 100倍	1花につき1回	散布	1	1
上記の内、育苗時・定植時の薬剤、ダコニール1000、Zボルドーを除く薬剤は、収穫前日まで使用可能(収穫の24時間前までに使用する)。 ダコニール1000は収穫7日前までに使用。 Zボルドーは使用時期の指定なし。							計16

留意事項

- 農薬カウント数を16で設定。Zボルドー、デルフィン顆粒水和剤は農薬カウントしない。
- 展着剤は、アビオン-E、アプローチBI、ハイテンパワーを使用する。(野菜の殺菌剤・殺虫剤に登録のあるもの)
- 各薬剤とも使用回数、希釈倍率、散布量など使用方法を厳守し散布する。
- 同一薬剤を連続して使用しないようにし、異なる薬剤をローテーションで使用する。
- 殺菌・殺虫剤の防除時期はめやすであり、予防防除、初期防除に努める。特にBT剤であるデルフィン顆粒水和剤は発生初期散布が重要。
- 耕種的防除との組み合わせにより、農薬使用回数の削減に努める。
- 殺菌剤と殺虫剤の混用について
 - 組み合わせを変えて、コテツフロアブルとボルドー液の混用については、必ずコテツフロアブルを先に調整後にボルドー液を混用する。
 - デルフィン顆粒水和剤は、Zボルドーと混用できない。